

森の巨人たち100選のオヒルギの樹勢回復措置について

西表森林環境保全ふれあいセンター 野邊忠司

1 はじめに

西表島の国有林の浦内川支流ウタラ川上流に生育しているオヒルギ（注1）は、平成12年度に「森の巨人たち100選」（注2）に選定され、西表島巨樹・巨木保全協議会（事務局：竹富町）によってその保全活動等が行われています。

昨年度、開催された西表島巨樹・巨木保全協議会の総会において、事務局から近年、台風等の影響で、オヒルギ及びサキシマスオウノキの枝が折損しており、樹勢調査を行いたいとの提案があり、琉球大学熱帯生物圏研究センターの馬場教授及び西表森林環境保全ふれあいセンターが依頼を受けて樹勢調査を行いました。

調査の結果、オヒルギについては、①残された枝2本を台風等の被害から守るために、防腐防蟻加工された木製支柱を鳥居型に組み枝を支えること、②オヒルギ周辺の地盤がオキナワアナジャコによる土砂の集積のために上がっていることから土砂を除去すること、③乾燥防止等のためにオヒルギから約2m下流側に流れている沢の水をオヒルギの上流側にも流れるように溝を作設すること、④腐朽による空洞が樹幹上部まであることから、腐朽している箇所を除去し、防腐剤を塗った後、根系の発達を促進するため自然素材のものを空洞部に充填すること、⑤樹勢の変化を継続的にモニタリングすることなどを西表島巨樹・巨木保全協議会事務局へ提案しました。

なお、モニタリングについては、西表森林環境保全ふれあいセンターで定期的に行い、その結果を西表島巨樹・



写真 - 1 森の巨人たち100選のオヒルギ

巨木保全協議会の総会で毎年報告することとしています。

今回は、樹勢診断結果に基づき行われた樹勢回復措置について報告します。

注1：オヒルギ (*Bruguiera gymnorhiza*) は、ヒルギ科に属するマングローブを構成する樹種の一つで、膝根と呼ばれる人が膝を曲げたような根を持つのが特徴です。

オヒルギの分布域は、オセアニアからインドまで分布しており、我が国では沖縄県の他に鹿児島県の奄美大島に分布しております。

注2：国有林の中から胸高直径1 m以上の樹木又は地域のシンボルとなる樹木を巨樹・巨木として100本選定（「森の巨人たち100選」）されています。

沖縄県では、西表島国有林内に生育している仲間川中流のサキシマスオウノキ及び浦内川支流ウタラ川上流のオヒルギの2本が「森の巨人たち100選」に選定されています。

2 生育地の概況

生育地は、西表島の北に位置する上原国有林 209 林班イ小班（図－1）で、マングローブ林の発達した浦内川支流ウタラ川上流の川沿いに生育しています。周辺は満潮時に海水が浸る泥湿地帯で、オヒルギを優占種とし、メヒルギ、サガリバナの混生したマングローブ林が発達しています。

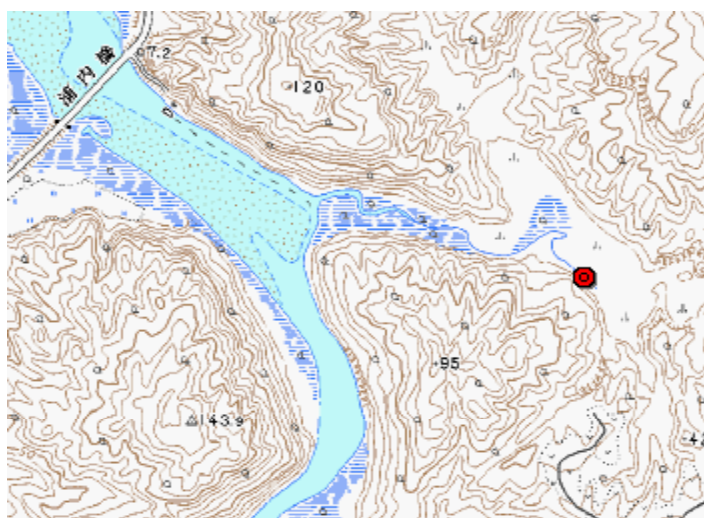


図 - 1 生育位置

3 樹勢回復措置の内容

(1) 木製支柱の設置

残された2本の枝を台風等の被害から守るために、防腐防蟻加工された木製支柱を鳥居型に組み枝を支えました。また、枝と支柱が接する部分は緑化スギテープをあてシュロ縄で固定しました。

樹勢回復措置前



樹勢回復措置後



写真－2 残っている枝－1



写真－３ 残っている枝－２

(2) オヒルギ周辺の土砂の除去

オヒルギ周辺の地盤がオキナワアナジャコによる土砂の集積のために上がっており、満潮時でもオヒルギの根が直接浸からないことから、周辺の土砂を人力で除去しました。土砂を除去したことにより膝根も表れ、地盤を平均4.4cm下げることができました。

樹勢回復措置前



樹勢回復措置後



写真－４ 地盤の状況

(3) オヒルギ片側周囲への溝の作設と土嚢の設置

乾燥防止等のためにオヒルギから約2m下流側に流れている沢の水をオヒルギの上流側にも流れるように溝（幅1m×深さ30cm×長さ10m）を作設しました。また、台風等の大雨時に溝が土砂で埋まらないように、溝の陸側に土嚢を積みました。土嚢を作るために使用した土砂は溝作設に伴い発生した土砂であり、土砂の有効利用も行うことができました。

樹勢回復措置前



樹勢回復措置後



写真－５ 溝作設及び土嚢設置

(4) オヒルギの空洞部の充填

腐朽による空洞が樹幹上部まであることから、腐朽している箇所を除去し、防腐剤を塗った後、空洞部への新たな根系の発達を促すためピートモスと粉炭の混合物を空洞部に充填し、その上に着生植物の侵入防止とオキナワアナジャコによる充填物の移動を防止するためグラスガードを塗布しました。

樹勢回復措置前



樹勢回復措置後



写真－6 空洞部の状況